

### 1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、あらゆる差別をなくし、自他の生命を尊び、知性・感性・道徳性・体力に富む、心身ともに健康な児童を保護者・地域と協働して育てる。そのため、自立と社会参加をめざし、自ら学び、考え、行動する力や個性を伸ばし、思いやりと規範意識を培い、共生社会を生きる上での基礎を育てる学校教育を推進する。 ○進んで学ぶ子 ○心やさしい子 ○たくましい子

### 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童と共に・・・知・徳・体の調和のとれた児童を育成する学校 ○家庭・地域と共に・・・保護者・地域と協創する学校 ○全教職員と共に・・・組織として教育力を発揮する学校
○児童・生徒像	○問題解決的な学習や体験的学習を通して主体的・対話的で深い学びを目指すとともに、ICTを活用し、知識・技能、思考力・判断力・表現力を身に付ける。 ○規則正しい生活習慣を行うとともに、いじめをしない・許さない、思いやりの心で誰とでも接し、自分を大切にする。 ○暑さや寒さに負けず、運動が好きでよく遊び、様々な運動を通して、基礎的な体力を向上させ、我慢強くなる。
○教師像	○校長のリーダーシップのもと、指導・事務・給食・施設など人的・物的な教育環境の充実に組織的に取り組む。 ○教育公務員としての使命の自覚、サービスの厳正、危機管理意識、人間性・社会性を向上させる。 ○研究・研修の日常化を図り、情熱をもって指導し、自らの指導力を高めようとする。 ○学校・学年・学級通信等の積極的な情報発信を行い、保護者や地域、関係者と円滑な交流を図り信頼関係を築く。

### 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

**【学校の現状】** 開校21年目を迎え、地域に支えられている学校である。学区域外通学と外国籍児童が一定数入学している現状がある。地域の商店街、4大学との連携、PTAおやじの会など保護者・地域が一体となった活動が充実している。

**【前年度の成果と課題】** ①年々、算数の学力が向上しつつあり、区の学力調査では全校通過率が3年連続80%を超えている。個人差が大きいのでAIドリルを活用した知識・技能の定着を目指したい。毎年、日本語が全くできない外国籍児童の適応と日本語指導が課題となっている。②基本的な生活習慣の定着率は約8割。児童は素直で明るく、高学年を中心として挨拶がきちんとできる。自己肯定感の傾向を把握する調査で、自分を大切にする児童の増加を目指している。③休み時間等によく遊ぶ。運動能力・体力調査は区の平均並み。④特別支援学級には、毎年通常学級からの転学があり安定した人数が在籍している。特別支援教室には25名を越える児童が通級している。⑤就学前施設が毎年20園を超え、交流園が増加している。⑥アレルギー対応児童が15名(エピペン9名)。⑦駅近のため産・育休教員が毎年複数名いる。⑧教育への関心が高い保護者が多く、商店会、町会、PTA、各ボランティア、おやじの会等、様々な面で協力的である。⑨4大学と連携、中学校と連携した教育活動に取り組んでいる。

### 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間(年度) R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン(AIドリルの活用による知識及び技能の定着)、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力等	◎	◎	◎	◎	◎
2	約束を守り、思いやり、自分を大切にする心の醸成(規範意識・いじめの根絶・自己肯定感)	◎	◎	◎	◎	◎
3	体力・耐性を育てる(運動への意欲と体力、頑張る気持ち)	◎	◎	◎	◎	◎
4	様々な連携を図った教育を推進する(保幼、小・中学校、大学、地域等)	○	○	○	○	○

## 5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
① 区学力調査目標通過率は、全校で国語(80%)、算数(81%)を上回る。 ② 学力低位層(目標通過率以下)の児童を3%以内に押さえる。		2年－国85、算85 3年－国85、算85 4年－国82、算82 5年－国80、算80 6年－国75、算75 全校－国80、算81		2年－国80、算83 3年－国89、算91 4年－国81、算85 5年－国85、算74 6年－国85、算86 全校－国84、算84		・2年生、4年生と個々に結果をみると下位層の底上げに課題が残るが、学校全体としては、国語・算数ともに通過率が80%を超え、これまでの校内研究の成果が表れている。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	朝学習 パワー アップ タイム	全児童 国語・算 数	毎週 火水木金 国・算 朝15分	担任が確認や繰り返しを行う。AIドリルを活用し、個に応じた学習を行う。その他、国語(MIM・漢字等)、算数はBDプリントを使用する。	区調査及 び東京BD 3回	低位層3%以下。東京BDの結果を8%UP(年度末)	東京BD正答率 67→70(3%UP)。	9月から区調査を 基にした補習に変 更。BDは3%の向 上に止まった。	△
継続	放課後 教室	個別指導 を要する 児童 (国算)	毎週 1回 放課後30 分	【指導体制】学年・専科等 AIドリルの活用 BDプリントの使用	各課題 東京BD の実施 (年3回)	低位層3%以下。東京BDの結果を8%UP(年度末)	AIドリル活用時間平 均：979時間。区調 査・BD：上記。	低位層は5%。 AIドリルの活用を 進める。	△
継続	夏季パ ワーア ップ教 室	個別指導 を要する 児童(国 算)	夏季休業 中10日間 (うち5 日間)	【指導体制】全教員①学習内容が定着していない児童への補充。②学習時間を確保し、個別の指導を行う。 【使用教材】AIドリル	夏休み前 と後の比 較(BD)	正答率8%以上 のUP	東京BDによる調査 は7月まで実施。年 2回に変更した。	指導効果を検証す る方法を検討す る。	△
継続	話の聞 き取り	全児童 国語	隔週1回	【指導体制】校長・担任 朝会での校長の話の聴き、発達段階に応じた評価	担任が定 数化	80%以上の 児童が正確に 聞き取る	A+B評価：81%。	要点を整理してま とめられるように なってきた。	○
継続	定着テ スト	全児童 算数	原則毎回	【指導体制】担任 算数の授業の終わりの数分、3問程度の適用問題を行い定着を図る。できない場合は中・昼休み等に指導。	その時間 内に評価	算数の時間内 80%	算数の時間内70%。	自力解決や検討の 時間とともに適用 問題を解く時間も 確保する。	△
新規	ICT 活用	全児童 各教科	適宜 最低週1 回	【指導体制】全教員・児童 授業で児童がICTを使って学習する機会を確保する。そのために校内研究をICT活用に特化する。	各授業時 間	ICTを活用 した授業回数 (年35時間 以上)	週1時間以上ICTを 利用した授業を行 った教員は100%。	AIドリルの活用 はできている。調 べ学習等にICTを 利用していく。	○

重点的な取組事項－2		約束を守り、思いやり、自分を大切に作る心の醸成（規範意識・いじめの根絶・自己肯定感）			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
学習、生活のルールを守り、他人をも思いやる心をはぐくむとともにいじめをなくす。	毎月の学習・生活目標の達成度 80% 学年末のいじめの9割解消 自己肯定感の前年度アップ	学習・生活目標の達成度：82% 学年末のいじめ：96%解消 自己肯定感調査：3.34	・特定の児童に対するいじめの解消を図ることが課題である。	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
①基本的な生活習慣（挨拶、忘れ物、廊下歩行等）の定着を図る。	・毎月の生活目標の達成目標を設定（85%）	・生活指導目標を具現化し週ごと重点目標を設定する。 ・長期休業後に「いきいきカード」活用（肯定的80%）	・重点目標の達成度：82% ・「いきいきカード」の肯定的回答：73%	・重点目標を意識させる一層の指導が必要である。家庭生活については保護者との連携を図っていく。	△
②いじめをしない、許さない心を培い、思いやる気持ちを育てる。	・保護者アンケートで「子供は学校が楽しい」という肯定的な回答が85%以上	・毎日、1回は子供どうしがよい点を発表する機会や場を設定する。 ・学期末に保護者アンケート。	・学校評価の保護者によるアンケート「子供は学校が楽しい」という肯定的な回答：92%	・コロナウイルス感染症による行動規制が緩和され、徐々に通常通りの生活を送ることができた。	◎
③児童の自己肯定感を高める	・hyper-QU結果向上。「自尊感情の調査」平均値（前年度）を上回る。「ダメな人間だと思ふことがある」を前年より減少	・自己肯定感を高める場の充実（千寿の郷、商店街、地域清掃、未就園児と交流など） ・児童のよさを見つける機会や場の確保	・コロナ禍のため、場の充実ができなかった。6年生が地域清掃を行った。 ・自尊感情の調査の平均→3.34	・今後、行動規制がさらに緩和されると考えられる。場の充実を図っていく。	△

重点的な取組事項－3		体力・耐性を育てる（運動への意欲と体力）			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
・外遊びを奨励し、遊びを通して運動の機会を増やす。全校実施の運動を決め、体力の向上を図る。	・外遊びの定点観測80%の児童 ・特定運動種目の2回調査と8%増	・定点観測90%。 ・調査を2回目実施。5%増	・外遊びだけでなく、年間を通じて長縄・短縄に取り組ませていく。	○	

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
①外遊びを奨励し、休み時間を確保する。	・学期に一度定点観測し、外遊びの人数 80%を目指す。	・個人や集団遊びを計画的に実施する。50m、反復横跳び、ソフトボール投げ	・1回目→2回目 50m 走 11.2→10.7、反復横跳び 38.5→37.3、ソフトボール投げ 16.2→18.3	反復横跳びが 3%減となった。敏捷性を高めるなど改善に向け取り組む。	○
②運動が好きな児童を育てる。	・体育の時間を中心として子供の技能を伸ばす工夫。(器械運動)	・体育朝会を実施し、全校への周知を図る。 ・教員の指導技術を学ばせる。	・持久走記録会や長縄集会を 2 回 行い運動する機会を設けた。	すすんで運動に取り組む児童の育成を課題として研究を行う。	○
③学校全体での計画的な体力作りを実施する。	・全校的な運動(持久走、長縄チャレンジ、短縄チャレンジ)	・年間を通して体力向上を図るための計画を立て実施する。	・持久走記録会、長縄・短縄チャレンジに取り組んだ。	・集中して取り組むだけでなく、年間を通じての活動を取り入れる。	○

<b>重点的な取組事項－4</b>	様々な連携（保幼・小・中、大学、地域等）と連携した教育を進める
-------------------	---------------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・登校渋りを少なくする。 ・交流園からの就学率の上昇。桜堤中への進学率の維持。大学・地域の教育力の活用	・1年生の登校渋りを夏までに解消。交流園から就学児童の増加。進学70%程度。4大学との連携、地域との交流学年1回、全学級の学級通信発行。	・1年生の登校渋りは夏までに解消。連携校への進学71%。大学・地域との交流は実施できず。全学級の学級通信の発行実施できず。	・児童同士、児童・生徒の交流の機会や、大学との連携を増やしていく。	△

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
①幼保小の取組	教員交流 2 回、園児交流 2 回以上、訪問園増加	・保育体験、子供同士の交流機会の確保、講話園の増加	・園児の給食体験 2 回、4 保育園の訪問。	・児童と園児の交流も行っていく。	△
②小中連携の取組	年 6 回 + α 実施。授業研究 2 回	・児童と生徒の交流場面開発	・年 6 回 + 指導案検討 2 回実施。小学校による授業研究 2 回実施。	・教科ごとに分担し、小学校教員が研究授業を行えた。	○
③大学、地域の教育力の活用、保護者への情報発信の工夫	4 大学との連携、学年 1 回地域と連携した教育遠隔操作を活用した情報発信（1 回以上）	・教科内外の学習の一環として招聘。(理科・音楽等) ・開かれた教育課程として地域行事への参加等 ・保護者へリモート等の発信	・東京藝術大学の学生による音楽鑑賞会を実施。 ・コロナ禍により、地域行事は中止。 ・閉鎖した学級において、リモート授業を展開。	・ICTをさらに活用することで、地域と連携した教育を行っていく。	○

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

【成 果】学力向上の取組で、通過率が前年度よりも上回った（国語：80→84、算数：81→84）。学校評価の保護者アンケートで、「学校が楽しい」という回答が9割を超えた。

【課 題】早寝・早起きなど、基本的な生活習慣の定着を確実に図っていくこと。

【方向性】長期休業明けに行っている「いきいきカード」の取組に重きを置くとともに、逐一保護者への啓発を行っていく。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

行動規制の緩和により、大学との連携事業や地域行事等が行われる際は、児童の活躍の場として参加することで、児童の自己有用感を高めたい。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

校内研究や教科指導を行う専門員等によって、本区が推奨する授業展開方法を多くの教員が身に付けることができ、授業改善につながった。今年度異動者等、まだ十分にそれを身に付けていない教員への指導を行うとともに、体育の授業改善を図ることで、児童の体力向上につなげていくことが今後の課題である。